

# 当面、ブロック割、基幹的総合事務所の設置場所で話し合いへ 総合事務所の見直し問題、振り出しに

総合事務所の在り方をめぐってはこれまで、大島区、安塚区などで市の対応に激しい反発の声があがっていました。12日の総務常任委員会では、この問題での市の今後の対応などについて質問が相次ぎました。

宮崎議員は、先月19日に行われた市民と市長の意見交換会に参加した市民の声をとりあげ、「意見交換会に参加した人が、あれは意見交換というよりも説得の会だった。そういうスタンスでいっては不信を招くだけだ」と批判しました。

私は、「総括質疑の場で市長は、『13区で一定の道筋をつけたうえで大島など3区と話をしていく』とのべているが、道筋をつけるという中身は、どういうブロック割にするか、基幹的総合事務所をどこに置くかが具体的に決まったことをいうのか」と質問しました。



これに対して市村総務管理部長は、「地域の皆さんから一定のご理解をいただいたというのが道筋がついたということになる。私どもが一番いいと思うものをとお示しし、議論がおおむね収斂（しゅうれん）してきた状態をいう」と答えました。

総合事務所の

在り方の見直し問題で村山市長は先月28日、総括質疑に答えて、「このまま4月から安塚区、大島区、浦川原区で試行することは困難。まずは13区全体のブロック割やそれぞれ基幹的な事務所の設置場所などについて13区の皆さんとも一定の道付けをつけることを先行させる必要があると考えている。その後、改めて具体的な実施について安塚など3区の皆さんと協議させてもらいたい」とのべていました。市が今後、どういう案を示そうとも、過疎に拍車をかけ、住民サービスの低下につながるものである限り、市民の反発は続くでしょう。

この日の総務常任委員会では、今後のスケジュールについての見解も明らかにされました。市村部長は、「いまの段階で大幅に変わる町内会集会場に關しては新年度予算で新築5件（頸城区2、吉川区2、三和区1）、修繕・増改築28件、緊急修繕対応で合計2452万円が計上されています。このうち新築については、補助率20%、限度額400万円となつています。宮崎議員と私がこの補助率、限度額のことを取りあげました。

とは考えてはいない。計画通りにいくかは私どもの説明次第だと考えている」とのべました。

## 町内会集会場の補助率など検討へ

宮崎議員は集落の規模によって補助率を考えると自己負担が重くなるところがあるので柔軟な対応を要請しました。私も、「現行だと小さな集落では負担が重く、補助を受けられない。県内他市と比較してどうか。少なくとも県内の平均的水準まで補助率を上げるべきではないか」と質問しました。木村共生まちづくり課長は、「他市と比較すると、決して高い方ではない。低い位置にある。検討していきたい」と約束しました。

## 板倉区国川の地滑り、 いまだ止まらず



7日に発生した地滑りは深刻化しています。私は10日から5日間連続して現地に入り、被災者を見舞うとともに、現地を視察しています。今後は党組織と共に被災者支援のために全力をあげます。

田中輪業さんの近くの三叉路で朝の挨拶を始めて三カ月目に入りました。同じ場所に立っているのですが、周りの景色、天候、通る車両などは毎日違いがあります。最近、近くの水路を流れる水の音が日増しに大きくなってきました。

毎日、同じ場所で挨拶していると、決まった時間にやってくる車や人の姿が頭に入り、気になります。例えば、小学校の子どもたち。毎朝、七時半に私の前を三人の子どもたちが歩いて通過します。今冬は風邪が流行しました。風邪で休む子どもがいれば、歩く子どもの数は減ります。だから、歩く子どもの人数が気になります。一番流行っていた頃、たった一人ということもありました。

一回だけですが、子どもたちがいつもの時間よりも一〇分ほど遅くなったことがあります。このときも、「みんな、風邪にやられたのかな」と心配になりました。毎朝、交通誘導をされているWさんもこの日はあきらめて帰られたので、急きよ、私が交通誘導をしました。

私のそばを歩いて通学している中学生は二人です。二人とも元気に挨拶をしてくれます。

このうち、二年生のT君は、区内の各種イベントでいつも一緒になる少年です。素直で、好奇心が強く、誰にでも気軽に声をかけます。最近では、もう一人の中学生がやってくるまで私のそばにいて、雪の山に登ったり、私に声を掛けてきたりと、とても賑やかです。T君は、「はい、橋爪さん、ボディチェック！」と言って体にさわったり、携帯電話をさがし、時間を確認しています。私は両手を上にあげてチェックに応じていますが、スキンシップのおかげですっかり仲良しになりました。

T君のすばらしいところは、何でも楽しく語ること。県立吉川高等特別支援学校の校長さんの車が見えた時には、「ぼくね、あの学校へ行くとしたら、ムービーメーカーを使って作りたいものがあるんだ……」と夢を語ってくれました。彼は一日から京都、奈良方面へ修学旅行へ行きました。旅行の前日、背中のかばんの中から青いファイルを取り出すよう私に求め、それに基づいて、「えーとね、最初はバスに乗ってね、それからサンダーボードに乗るんだ」などと行程を説明してくれました。どんなみやげ話してくれるか楽しみです。

三月に入ってから、通る車にも少し変化が出てきました。JAの職員さんや中学三年生の保護者など何人かの車が見えなくなったのです。人事異動があり、卒業式を迎えた、といえればそれまでですが、挨拶を交わしていた人いつもの時間に会えなくなるというのはさみしいものです。

季節は春に向かって進んだり戻ったりするようになってきました。一月の上旬、朝日が私立っているところを照らしたのは七時五〇分頃でした。山方の大田さん宅の外壁にまず日が当たり、続いて田中輪業さんの近くの建物も明るくなりました。そして、しばらくすると私の体にも光があたりはじめるのでした。それがもう、六時半頃から日があたりはじめるようになってきたのです。

近くで聞こえる水音をうれしく受けとめていると、今度は小鳥たちの鳴き声も聞こえてくるようになりました。「ツイッ、ツイッ」という鳴き声がありましたので見上げると、テレビのアンテナの一番上でシジュウカラが鳴いているじゃありませんか。小鳥たちも春の訪れを喜んでいるのでしょうか。

## 広島平和記念式典への中学生派遣、増員を検討すべき

広島平和記念式典への中学生の派遣については、各校から1名を派遣することが長く続いています。12日の総務常任委員会で私は、昨年の式典に参加した生徒たちの文集を読んだ感想をのべ、「すばらしい文章がいくつもあり、平和なまちづくりをすすめていくうえで派遣の果たしている役割の大きさを感じた。糸魚川市のようにぜひクラス代表を送れるようにできないか」と発言、派遣生徒を増やすよう求めました。

これにたいして山岸副市長は、「財政との問題だろうと思う。毎年同じスケール、パターンでいいのか。どういう方向で行ったらよりよいことになるのか検討したい」とのべました。今後、どういう展開となるのか楽しみです。

## 重要情報はもっと迅速にホームページに掲載を

ホームページに関しては、大事な行政情報は必ずとりあげ、もっと迅速に発信するよう求めました。

具体的な例として私があげたのは、2月5日の市長による豪雪対策に関する国交大臣への要望書提出、信越線脇野田駅移設に関する1月16日の設計協定、3月6日

の施行協定（いずれも市とJR東日本との間で結ばれた協定）です。2つとも、新聞報道されるまで、あるいは議会で質問されるまで事実が明らかにされませんでした。私は、「市民が関心を持っている重要問題なのにまったくとりあげられてこなかったのは問題だ。早急に是正すべきだ」と訴えました。

市村総務管理部長は、「市が行っていることは基本的にはすべてオープンにすることになっている。そうしたものをできるだけお知らせするという基本姿勢は変わっていない。各課には広報主任を置いているので、広報主任会議などを通じて徹底していく」と答えました。当面、私が指摘した2つの事がいつ掲載されるか注目したいと思います。

## 私の一般質問は19日(月)午前の予定

今回の私の一般質問では、豪雪対策と並行在来線問題をとりあげます。いまのところ、私が登壇するのは、早ければ19日(月)の午前10時から、遅くとも午前11時過ぎとなる予定です。JCVで放映されますのでごらんください。

(写真はオーレン。吉川区代石地内で10日撮影)

